

第三編 村の生活

第一章 村の生活の諸相

一、村の生活の概説と資料の所在

われわれの毎日の生活は、全くありふれた日暮しのことを、慣習的にやっっているに過ぎないようにみえる。しかし、たえず、もっとよい生活、暮しの豊かな生活に浮びあがりたいと、考えていないこともない。

それならわれわれの望んでいる理想の生活とは、どんなものかとなると、必ずしも、しっかり掴んでいるわけではない。衣・食・住の物質的な、豊かな生活を望んでいるようでもあるし、衣・食が足りれば、村人と仲よく精神的にも悩みの少ない生活がほしいと思う。

そして、殆ど十年一日か、百年一日のような生活をしてきているようにみえるが、何十年か区切ってみると実に変化も激しいのに驚く。特に近年の敗戦とか、機械文化の急激な発達によって、農村の生活も、めまぐるしく変っている。これを現在のまま記録して、そのよってきた変遷を解き、その意味を考えることは、われわれの生きてゆくために、実に大切なことであるが、目の前がありふれた生活であるために、意を払って、見つめようとしてもしない。

会津藩などでも、平和な生活が永くつづくこと、毎日の生活を考えてみようとする識者がでてきたものか、今から三〇〇年ほど前の貞享二年（一六八五）に、各村に風俗・習慣の書きあげをさせている。その殆どは、現在記